

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道431号 川津バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	島根県
起終点	自：島根県松江市西川津町 至：島根県松江市野原町	延長	8.1km		
事業概要	一般国道431号は、島根県出雲市を起点とし、鳥取県米子市に至る延長約9.6kmの幹線道路である。 川津バイパスは、松江市内の渋滞を緩和し、安全で円滑な交通の確保を目的としている。				
S48年度事業化	S48年度一部都市計画決定 (H15年度一部変更)	S51年度用地着手	S56年度工事着手		
全体事業費	約144億円	事業進捗率	92%	供用済延長	6.7km
計画交通量	15,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) -	総費用 (残事業)/事業全体 -/230億円 事業費：-/223億円 維持管理費：-/7.3億円	総便益 (残事業)/事業全体 -/753億円 走行時間短縮便益：-/697億円 走行費用減少便益：-/53億円 交通事故減少便益：-/2.8億円	基準年	平成20年
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.5（交通量+10%） B/C=2.7（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.9（事業費+10%） B/C=3.5（事業費-10%）				
事業の効果等	・国土、地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心である松江市街地へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化への支援（重要港湾境港へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（緊急輸送道路ネットワークが形成される）				
関係する地方公共団体等の意見	松江市長から当該バイパスの早期整備の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・沿線ではあじさい団地などの団地・宅地開発が進んでいる。 ・当該バイパスと山陰道を繋ぐ（地域高規格道路境港出雲道路）国道485号松江第五大橋道路が、平成15年度に新規事業化し、平成24年度の供用開始に向け鋭意工事を進めている。 ・平成17年3月に、松江市および周辺7町村が合併し、新松江市が誕生した。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	これまでに用地取得を約99%完了し、工事を3地区に分けて鋭意進めている。 川津地区（L=3.3km）は、延長0.9kmが完成4車線で供用済、延長2.4kmが暫定2車線で供用済である。 坂本地区（L=1.9km）は、延長0.5kmが暫定2車線で供用済である。 本庄地区（L=2.9km）は、全線暫定2車線で供用済である。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部において用地補償協議が難航し、不測の時間を要したが、平成21年度中には、用地取得が完了する見込みであり、平成20年代前半の全線供用を図る。				
施設の構造や工法の変更等	建設副産物の発生抑制や再生資源利用等により、今後ともコスト削減を努めることとしている。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。